よねだところどころ

第二十一号

ヨナダーが下米田・牧野の色々な見どころを紹介するよ

則光の八幡神社

土屋氏の記録から八幡神社の起源をさぐる

字則光の山裾に鎮座する神社である。拝殿から石段を登った斜面に本殿がある。津島神社を併祀する。本殿は沖積面を見下ろす場所にある。　祭神　応神天皇

鎮座地　美濃加茂市下米田町則光五〇三番地

由緒由来　神社庁による

元禄二年八月創建の棟札之有り。明治四年二月迄氏子有の村社に候処、同年二月より郷社諏訪神社氏子合併せられしより、以来無格社とす。本殿縦一間三寸横五尺三寸。境内五百九十八坪。

土屋氏の記録によれば、「永禄三年桶狭間の戦いにおいて、今川義元の家臣何某は、**落人となって尾張の国舩橋村に留まり**、数年間修行者となりて、諸国をめぐり終わりに則光村に来たり、**舩橋常蔵と改名**してこの地に居住す。この人幼少の頃より「応神天皇」を尊崇し、この像を常に身に着けて、護身として身の安全を祈り、喜びて**則光村字中林**に祀り、建立して**八幡神社**とす」

この記録からは、舩橋家の先祖は今川家に仕えた武士で、戦いに負けて尾張の舩橋村に居留したのち、美濃国加茂郡米田庄則光村に移動し定住した。この舩橋家が応神天皇「土屋氏は本田和気命・譽田天皇（ホムタノスメラミコト）」を勧請し、八幡神社とした。境内の石段は、中より下が四十、上が三十七と記され、元文二年に、則光氏子により寄進されたという。明治八年に清友の天神社を合祀し、大正十三年に村社となる。中段の鳥居は大正十三年に、土屋家出身の川辺町松島屋矢島氏等により寄贈されたとある。

＊注　愛知県稲沢市船橋町　三宅川中流の蛇行部右岸に位置する。地名の由来は、急流のため架橋できず、船を並べて橋代わりにしたことによるか。【角川日本地名大辞典による】船橋とは、小牧。長久手戦でも犬山に架橋されたとある。川面に舟を並べてつなぎ、渡河する施設である。